



外交官経験者が語る

中東の暮らしと文化

朝日カルチャーセンター・新宿教室

若林 啓史

講座全体の見取り図（カッコ内は開講予定日）

中東の四季とさまざまな暦（2022年9月14日）

中東の人々の衣服（2022年10月）

中東の食文化

アラブ料理/ユダヤ教徒の料理（2023年1月）

トルコ料理（2023年2月）

イラン料理（2023年5月）

中東の人々の住まい（2022年11月）

中東の人々の娯楽（2023年6月）

中東の年中行事

イスラームの巡礼と犠牲祭（2022年7月13日）

イスラームの断食月（ラマダーン）（2023年4月）

イスラーム・シーア派の「アーシューラー」（2022年8月10日）

キリスト教徒のクリスマス/ペルシア文化圏の冬至（2022年12月）

ペルシア文化圏の新年（ノウルーズ）（2023年3月）

写真上は、イラン最高峰ダマヴァンド山。標高 5609m。独立峰で富士山に似た外観

下は、ダマヴァンド山麓で咲き誇るハカマオニゲシ（*Papaver bracteatum*）



中東の年中行事： イスラームの巡礼と犠牲祭



写真 20世紀初頭のメッカ巡礼

中央は、「マフマル」と呼ばれる、巡礼団を象徴するお神輿

1 「イスラーム」という言葉

○アラビア語で、「帰依して安心する信仰」という意味の名詞

○アラビア語は、基本的に子音 3 つの組み合わせで概念の大枠を決め、3 子音の前後に

a, i, u の母音や、それらの長母音を加えて、個々の単語ができています

→ 「s-l-m」の 3 子音で、大まかに「安心」に関わる単語のグループを形成します

「islām」(イスラーム) は、「salām」(平安) などと同じグループの単語です

「muslim」(ムスリム) は、イスラーム信者の男性、女性はムスリマといます

※ 「イスラーム」と「イスラム」、「イスラム教」、「回教」との違い

→ アラビア語は、短母音と長母音の使い分けで意味が変わることも多く、日本語での転写に際しては、正確を期すため、「イスラーム」の表記が主流になっています

(出版・編集の現場では、字数圧縮のため、今でも長くなる表記を嫌がる傾向あり)

→ 「イスラーム」には、すでに「信仰」の意味が含まれており、「イスラム教」という表現は、「馬から落馬」と同じく、重複した表現です

→ 「回教」は、「回紇」(「ウイグル」の古い言い方) 由来で、戦前には使われました

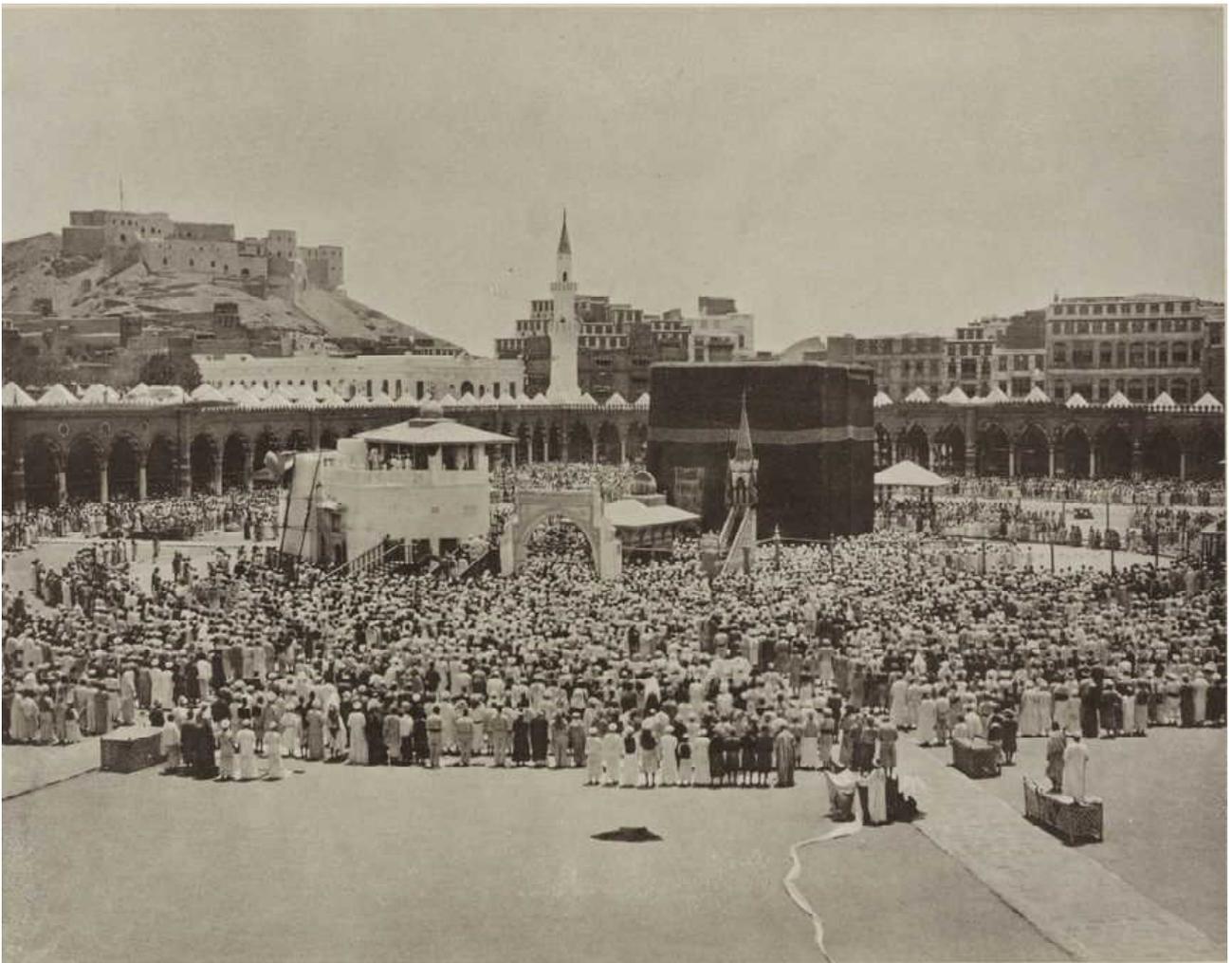


写真 メッカのカアバ神殿（黒い四角の建物） 1884年頃撮影

2 イスラームの巡礼とは？

- イスラームの教義は、「六信五行」に凝縮されます。
- 「六信」は、信ずる義務のある6つのこと、具体的には、「アッラー」（唯一神）、「天使」、「啓典」（クルアーン）、「預言者」、「来世」、「宿命」です
- 「五行」は、行う義務のある5つのこと、具体的には、「信仰告白」（「アッラー以外に神はなく、ムハンマドは神の使徒である」というアラビア語の定型文を唱える）、「礼拝」、「喜捨」、「断食」（ラマダーンにおける決められた時間帯の断食）、「巡礼」（「巡礼月」における決められた方式に従ったメッカ巡礼）です
- 巡礼月に行く「ハッジ」（大巡礼と呼ばれることも）以外に、任意の機会に行く「ウムラ」（小巡礼）というメッカ詣でがあり、区別されています
- 巡礼は、「五行」の他の義務と異なり、本人の状況が許す限り行えば良いとされます

3 イスラームの巡礼は、いつ行うの？

- イスラームは、新月が見えた日を月初とし12か月を数える太陰暦を採用しています
- イスラーム暦（ヒジュラ暦）では、各月は29日または30日、1年は354日または355日で構成されます。太陽暦より、毎年10日ほどずれていきます
- 「巡礼月」は、12番目の月で、今年は、6月30日～7月29日にほぼ相当します

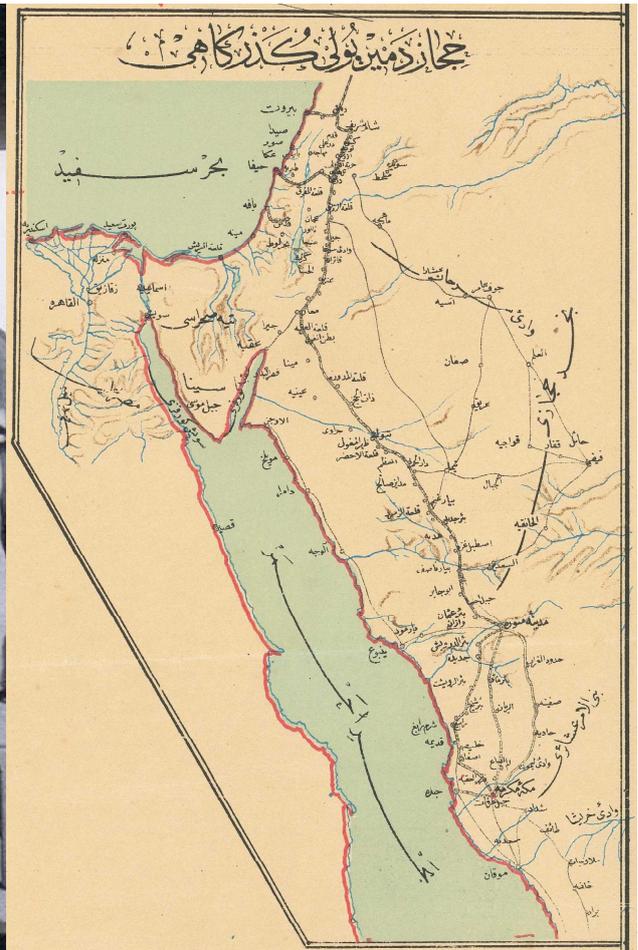


写真 ヒジャーズ鉄道（1908年開通）による巡礼の旅
 ダマスカス～メディーナ間 1300km を 4 日間で走行

4 巡礼の歴史

- メッカのカアバ神殿は、イスラーム以前にさかのぼる信仰の場所でした。西暦 629 年末、預言者ムハンマドに率いられたムスリムたちは、メッカを征服しました。ムハンマドはカアバ神殿に祀られていた多数の偶像を壊し、神殿をアッラーに捧げました
- 西暦 632 年、ムハンマドは住んでいたメディーナからメッカまで、彼の生涯で一回限りとなった巡礼を行い、その方式を定めました。以来、ムスリムたちはイスラーム暦の巡礼月に、ムハンマドが定めた手順で、巡礼を続けています

5 キスワ

- カアバ神殿を覆っている黒い布は、「キスワ」と呼ばれます。アイユブ朝時代（1171-1260）より、キスワはカイロで毎年新しく作られ、エジプトからの巡礼者によって、メッカに届けられました。1962 年、サウジアラビアはエジプトからのキスワ受け取りを拒否し、以後、サウジアラビア製のキスワが用いられています
- 現在のキスワ製作では、生糸 670kg、金糸 120kg、銀糸 100kg が使われます
- キスワは、巡礼行事第二日にあたる、巡礼月 9 日の明け方に交換されます。古いキスワは、以前は細片にして、巡礼者に分け与えられました。現在は、イスラーム諸国の要人への贈り物にされています



写真 カアバ神殿の内部

6 巡礼行事のあらまし

- 以下は、「ウムラ」(小巡礼)と「ハッジ」(大巡礼)を一度に行う推奨方式です
- 巡礼者は、木綿の白布から成る浄衣(男性の場合)に着替えます
- 巡礼者はカアバ神殿の聖域に入り、アッラーを讃えます。神殿の一角にある黒石に触れ、神殿の回りを反時計回りに7回ります
- 巡礼者は、メッカの中心に近いサファーとマルワの二つの丘に向かって行進します。そして、二つの丘の間を七度往復します(ここまで「ウムラ」の儀式)
- 「ハッジ」初日にあたる、巡礼月 8 日、巡礼者はメッカからミナーの谷に移動し、天幕に入って、礼拝を行います
- 第二日にあたる、巡礼月 9 日の夜明けとともに、アラファートの谷(メッカから 21km)に移動します。その日の正午、全ての巡礼者がアラファートの谷で礼拝します
- 巡礼月 9 日の日没後、8km 離れたムズダリファまで戻り、その夜を過ごします
- 第三日にあたる、巡礼月 10 日の朝、ムズダリファからミナーの谷まで戻ります。そして、悪魔を象徴する石柱(現在は壁状の構造物)に向かい、小石を投げます
- 石柱に投石してから、巡礼者は羊、山羊、ラクダなどを犠牲に捧げます(現在はクーポン購入で代行可)。巡礼月 10 日が犠牲祭の始まりになります
- 全ての巡礼者は、さらに二晩はミナーの谷で過ごさなければならず、巡礼月 11 日と 12 日は、石柱への投石を行います。巡礼者は、巡礼月 10 日から 12 日までの間にもう一度、カアバ神殿を 7 回りし、サファーとマルワの丘を 7 往復します

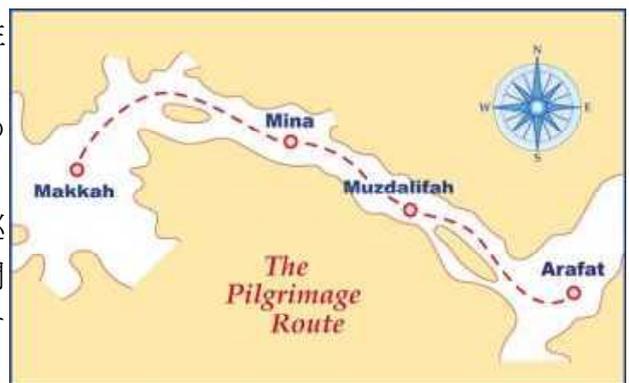




写真 チュニジアの家畜市場で犠牲祭に備えて買い物する人

7 犠牲祭（イード・アルアドハー）

- 巡礼は、特定の時期にメッカに集合したムスリムたちにより行われますが、犠牲祭は、全世界のムスリムによって祝われます
- 犠牲祭は、イスラーム暦で巡礼月 10 日から 3 日間にわたります。初日は、西暦 2022 年 7 月 9 日に当たる見込みです（太陰暦のため、月の見え方でずれる場合あり）
- 犠牲祭は、ユダヤ教、キリスト教、イスラーム共通の伝承である、神がイブラーヒーム（アブラハム）に、その子（新旧約聖書ではイサク、イスラームではイスマーイル）を犠牲に捧げるよう命じられ、イブラーヒームが従おうとすると、彼の信仰を試した神は、子の犠牲を止めさせた話に基づいています。イブラーヒームは感謝し、代わりに子羊を神に捧げました
- イスラーム諸国では、最近まで犠牲祭に道路や店頭などで、公然と家畜を屠る姿がみられました。しかし、市街地や一般の眼に触れる場所での屠殺を禁じる国が増えています。メッカでも、巡礼者に代わって犠牲を捧げる代行業者がいます
- 犠牲祭で犠牲に捧げられた家畜の肉は、一部がムスリムの貧者に配られる習慣です

※犠牲祭で家畜を屠ることは、イブラーヒームの故事を想起し、神に感謝してムスリムの喜びを表現するものです。家畜を何かのために犠牲にする、あるいは屠殺そのものが目的であるかのように解釈する、さらには、多数の家畜が血を流す姿をイスラームの残忍性の証明であると主張するのは、曲解であると言わざるを得ません。従って、犠牲祭に政治的暴力が敢行されるという警告は、祝祭への無理解を示しています



写真 2020年の巡礼（カアバ神殿の角下方に、カアバの黒石がある）

8 巡礼の現在

- 1950年代まで、サウジアラビア国外からの巡礼者は、毎年10万人を超えることはほとんどありませんでした。1970年代以降、外国人巡礼者数は急激に増えました
- サウジアラビア国外からの巡礼者の受け入れは、1988年のイスラーム協力機構会議で、各国ムスリム人口の0.1%と制限されました。この決定により、1990年の外国人巡礼者数は、100万人と見積もられました。
- 2012年の巡礼者総数は、過去最大の316万人超でした。新型コロナ拡大直前の2019年の巡礼者総数は250万人、その3/4近い185万人が、国外からの巡礼者でした
- 2020年の巡礼では、巡礼者はサウジアラビア国民1000人に限定され、2021年はサウジアラビア国民6万人に拡大されました。今年は、外国人巡礼者の受け入れが再開されました

9 巡礼と交易

- メッカとメディーナは、古代よりシリアとイエメンを結ぶ隊商路の要衝であり、商業の拠点として栄えていました
- 預言者ムハンマドは、若い頃、商業活動に従事していました。クルアーンには、商取引に例える教えがみられ、また、イスラームにおいては、商業は重視されています
- 巡礼は、宗教行事のみならず、イスラーム諸国から集まる巡礼者の交易の機会や、情報交換の場でした。巡礼者は、出身地の産品をメッカやメディーナの市場で売却し、巡礼土産を持ち帰りました
- 現代でも、メッカとメディーナには、巡礼者を顧客とする多数の商店が並んでいます。扱われる商品は、数珠や衣類などから、家電製品まで、実に多種多様です



写真 将棋倒しが発生した日、ミナーの谷にひしめく巡礼者 2015年9月24日撮影

10 巡礼での事件

- 巡礼では、宗教心で高揚した極めて多数の人々が、狭い範囲に集結するため、しばしば事件・事故が発生しています
- サウジアラビア当局は、増加する巡礼者に対応するため、石柱への投石の儀式で混雑するミナーの谷には、陸橋を設置するなど対策を採ってきましたが、多数の死傷者を伴う巡礼者の将棋倒しが繰り返し発生しています
- 2015年の巡礼直前、カアバ神殿を囲んで建てられたモスクの改修現場でクレーンが倒壊し、500人以上の死傷者を出す事故が起きました。さらに、この年の巡礼では、2400人を超える死者を出したとされる大規模な将棋倒しが発生しました。この事故のイラン人犠牲者は464人に上り、イランとサウジアラビアの外交問題に発展しました。イラン政府は、2016年の巡礼への参加を見合わせる措置を採りました
- サウジアラビアの支配的宗派であるワッハーブ派は、イラン人の大多数が属するシーア派を異端視する背景があり、特にイラン革命後は、イラン人巡礼団とサウジアラビア当局間の衝突が発生しています
- 1987年7月の巡礼では、イラン人巡礼団の抗議行動を阻止しようとしたサウジアラビア官憲が衝突し、イラン人巡礼者400人以上が死亡しました